

①経営体の概要

- 所在地: 鹿児島県熊毛郡南種子町
- 経営体名: 有限会社 小脇牧場
- 経営概要: 乳用牛約250頭、繁殖和牛約190頭
自給粗飼料: 20ha(借地含む)
※主に和牛用(冬: イタリアン、夏: ローズグラス)
- 従業員数: 家族4名、従業員5名、繁忙期のパート2名



②導入技術・システム(商品名・サービス名、企業名)

- レリー社: アストロノートA4(2台)、A5(2台)
- レリー社: JUNO(餌寄せロボット)
- オリオン社: 哺乳ロボット(4台)

③導入の経緯

- 外国人技能実習生を受け入れていた時期があったが、指導したとおりの作業が進まず、乳質が落ち乳房炎が増加したため、乳用牛を減らすことになった。
現在は、外国人技能実習生の受入れを止め、搾乳ロボットを4機を導入し、増頭も検討中。



④導入に当たり活用した補助事業等(国、県)

- H29年酪農経営体生産性向上緊急対策事業(楽酪事業)で搾乳ロボット2機導入
- H30年草地畜産基盤整備事業で搾乳ロボット2機導入、餌寄せロボット(JUNO)導入

⑤導入してどうだったか(その1 導入前との比較、効果)

- 一番のメリットは、1日3回の搾乳の労働が楽になった。
(1日: 3人×3回×5h→1日: 2人×3h(稼働状況の見回りは適宜))
- データによる乳質管理が可能になった。
- 乳房炎の罹患頭数が減り、乳質も向上した。
- 牛の首輪センサー(個体識別タグと活動量計内蔵)から、搾乳ロボットシステムに、牛の行動等のデータが送信され、そのデータで発情を判断できるようになり、受胎率が向上。
- 廃棄乳などの出荷できない生乳を自動的に専用のタンクに送乳、冷却貯蔵する仕組みを設け、それを殺菌して仔牛の哺乳(哺乳ロボットを使用)に回すことができるようになり、仔牛の発育向上や代用乳の購入コストを抑えることができるようになった。
- 哺乳にかかる時間が少なくなり、管理にかかる時間が増え、仔牛の事故も減った。
- 餌寄せロボット(JUNO)が自動的に餌を押してくれるので労働時間が軽減された。

⑥導入してどうだったか(その2 改善してほしい点、課題)

- 最寄りのサービス拠点から離れているため、搾乳ロボットの故障発生時はユーザー自ら対応する機会が多い。そのため対応の部品の置き在庫拡充が望まれる。